

「相互文化性」を求めて フランスで議論したこと，考えたこと

2008年11月28日

細川英雄*

1 3回のフランス滞在，生活と研究

1978 地方国立大学就職（教員養成のための国語学）

1983-84 パリ第三大学日本語講師（INALCO） 国語教育から日本語教育への転機*¹

日本語教育との確執*² / 日本事情との出会いから早稲田での仕事へ（*³） / ことばと文化の統合

1995-96 パリ大学交換研究員（パリ・アカデミィ） 言語文化教育の理論的構築*⁴*⁵

大学院日本語教育研究科設立 / 日本語教育の形式・目的主義批判（準備応用主義）*⁶

2007-08 特別研究期間 + パリ大学交換研究員（パリ・アカデミィ） 第3の言語教育への方向性*⁷*⁸

今回の幸せ 住居の安定，研究室の確保，人的ネットワークの成果（講演6・発表8の機会）

2 フランス言語教育の最前線

2.1 セルジポントワーズ大学 CIRFAC へのクラス参加

- CEFRの現場ポートフォリオと自分誌 ミュリエル・モリニエの仕事

* NPO 法人言語文化教育研究所理事長

*¹ 『パリの日本語教室から』（1986年，三省堂）

*² 『日本語を発見する』（1991年，勁草書房）

*³ 『実践「日本事情」入門』（1994年，大修館書店）

*⁴ 『日本語教育と日本事情』（1999年，明石書店）

*⁵ 『日本語教育は何をめざすか』（2002年，明石書店）

*⁶ 「日本語教育学をめざすもの 言語活動環境設計論による教育パラダイム転換とその意味」（『日本語教育』132，79-88）

*⁷ 「新しい言語教育をめざして 母語・第二言語教育の連携から言語教育実践研究へ」（小川貴士（編）『日本語教育のフロンティア』2007年，くろしお出版）

*⁸ 『論文作成デザイン』（2008年，東京図書）

2.2 「文化」をめぐる日仏の議論から

- ジュヌヴィエーヴ・ザラト*⁹の研究会 (Séminaire Frontières culturelles, diffusion des langues et didactique) (文化的境界, 言語と教育の普及セミナー)
- 2008年4月25日リアル, フランス日本語教師会シンポジウム*¹⁰ 「文化コード」をめぐる議論 (牧野成一・Zarate, G.)

3 「相互文化性」という考え方

inter-culture (相互文化) inter-culturel (相互文化性)

- 多文化主義 multi-culture から複文化主義 pluri-culture へ
複合体としての「文化」を個人化するという行為 個人と個人の関係性としての「文化」
国際化 international とは, ナショナリズムの変形に過ぎない。
- 「文化」をつくるものは何か 「情報」と「体験」をどのようにして乗り越えるか
自分の中のイメージの更新へ 「情報」と「体験」を疑う「私」をつくる 批判的思考の形成
安定・安住から, 挑戦・開拓へ
- 分析の限界から出発すること, 混淆の総体を全体として受け止めること, その混淆全体をダイナミックな対話運動体と捉える 情報/体験 感じる・考える「なぜ?」 表現する 他者とのインターアクション 考え, 表現する (絶え間ない永遠の繰り返し)
- 相互文化性とは, さまざまな社会性を帯びた個人と個人の関係性。この相互文化性を活性化させる環境をつくるのが, 言語教育の新しい方向性。

*⁹ 『変貌する言語教育』(2007年, くろしお出版)

*¹⁰ 「相互文化性と対話のダイナミズム ことばと文化の統合のために」(「フランスの日本語教育」4号, 2009年3月刊行予定・シンポジウム・論文とも日仏両語にて掲載)